

付 録 6

第 2 次面接調査の結果 —タツヤ校長先生へのインタビュー—

付録6 第2次面接調査の結果—タッサ校長先生へのインタビュー—

日時：2004年1月9日 10：40 - 11：19 - 12：00（中断あり計50分） 場所：校長室

はじめに—研究設問—

第1次第2次調査の対象であったタッサ宗教学校では、その修了生の多くが、後期中等学校を終了しSPMを受験した後に、全国に散らばる大学のマトリキュレーションに進学するため、ペラ州で追跡調査することが困難であった。したがって、偶然に得た機会ではあるが、タッサの卒業生の一人である校長先生にインタビューすることによって、タッサの女子生徒の進路形成に関する全体像と、教育方針、卒業生の一人として自らの事例を提供してもらった。

《生き立ち》

タッサの卒業生でもある校長先生は、タッサ中等学校を修了した後フォームシックスに進学し、マレーシア国民大学(UKM)に4年間通った。大学卒業後、3年間ほど通常校で“普通の”教師をした後、キンタ・フルの教員養成カレッジ(イポー)では7年間講師として教鞭に立った。36歳で(1985)タッサの校長になり現在に至る。現在55歳、今年(2004)の誕生日に定年退職する予定になっている。「1年退職の期間を延ばすこともできるが、もう十分なのでやめることにする。やっぱりこの仕事は日々のプレッシャーが大きくて大変だった」ためである。子どもは4人いる。上からマレーシア北部大学(UUM)を卒業し、会社の副社長をしている長男、カイロの大学に通っている次男、長女はUIAで薬学を専攻し、三男はメルボルンの国立大学でやはり薬学を専攻している。

《マレーシアの女性の教育》

[筆者の研究テーマが「マレーシアの女性と教育」であり、「なぜマレーシアの女性は理系にも多いか」というテーマに関心をもって研究している旨を伝えると]「男性の方が、IQが高いが、あまりまじめに勉強しないのに対して、女性の方がまじめに勉強するからだ(女性が理系に多くなる)」と答える。また、「理系に入るのはより難しく大変なので、まじめに勉強しない男子よりも女子の方が入りやすくなる」とも述べた。

《マレーシア社会における女性の職業機会》

一般的に、女性は責任感が強いが、マレーシアではまだキャリアの面で女性にチャンスや場所が足りないと、ある女性関連の NGO が言っていたことを引きながら、「あっていますか？十分な機会が女性にはまだ与えられていない」と主張する。

《タッヤの生徒の差別体験》[タッヤの生徒の中には、「性差別を感じたことがない」と答える生徒が多かった旨を伝えると]「差別を生徒たちが感じたことがないのはとてもよいことだ。実際は、女性だけに囲まれて仕事にも就いたことがないからだろう。学校は女性だけだからあまり差別を感じたことがないのだろう」という感想を述べた。

《女性の責任感》また、「一般的に、マレーシア社会でも（性）差別はあまりないと私も思う。あるとしても政府系よりも私立セクターであるだけかもしれない」とし、「たとえば経理（クラニー）でも、女性の方が責任感が強いので信頼（amanah）を置くことができるものだ」とした。

《家族における差別、華人との対比》

「家族の中でも、（華人に見られるような差別は）ないと思う。自分の家族でも平等だ。華人の友だちはあまりいないので（華人の状況は）よく分からない。でも華人は、女子があまり好きではないだろうと思うことはある。でもあまりよく分からない。マレー人はそんなことはない。男子も女子もたたくことができる。」

《家庭の教育》

「教育がきちんとしている家族は子どももしっかりしている」という意見を聞くと、[途中で他の先生が2人校長室に入ってくる。問題行動をした生徒の両親と校長が面談するため]「親の教育や職業的地位が高いと、子どもがあまり悪さをしないと云えるが、そのことと学業成績とはあまり関係ない。だが大半は教育や職業的地位が高い親も多い」とした。

《男女の違いに対するタッヤの教育》

タッヤにおいては、「男女の地位の違いを、コーランの教えに従うように指導している。やはり男性の責任は女性よりも重いので。」[先ほど女性の方が、責任感が強いとおっしゃったとたずねると] 宗教的には、男性の責任、地位や仕事の責任の方が重い [同席した男性の先生を気遣いながら]。「しかし能力の高さ（kelebihan）で女性が上回っている面も

ある。こういう風に教えるのは宗教学校だからで、こういうことは普通校よりもしっかり教えている。もちろん、西洋の考え方も生徒は分かっているが、より宗教的な考えを教えるようにしている」。[中断]

《高等教育の意味》

最後に、「タッヤの生徒にとっての高等教育の意味は、よいキャリア (kerjaya) の機会を得ること、生活レベルをよくすること、子どもの教育をよくすることなどの意味があると考えている」として結んだ。